

※受付日

※受付No.

※本学記入欄

2022 年度学生チャレンジ制度 活動報告書

提出日

2023 年 3 月 28 日

①プロジェクト名	日野市百草の空き家活用プロジェクト《みなもぐの家・百草のお茶の間》				
②プロジェクトリーダー					
・フリガナ	ヤマダ ユウダイ		・学籍番号		
・氏名	山田 祐大				
・学部	経済学部	・学科	観光経営学科	・学年	3

③活動期間	2022 年 4 月 1 日 ～ 2023 年 3 月 31 日	
④助成額	280,058 円	
⑤活動の内容 及び経過 (具体的に)	実施日	内容や経過
	1 月 19 日	活動内容 ・道掃除・水やり①：昨年度から引継いだ、家周辺の道路や側溝の掃除と庭の草花の水やりを開始。以降、2 週間毎を目安に植栽の状況等も勘案しながら、道掃除・水やりを継続した。
	2 月 7 日	・ZOOM にて今後についての打ち合わせ：空き家の現状の確認、修理箇所の確認、イベントを行う上でのターゲット設定、班の設定などについて話し合いを行った。
	3 月 3 日	・ZOOM にて 2 月に決まらなかった事項の決定：班分けと役割を確定(こども村班・修理班・広報班)。
	4 月 26 日	・道掃除・水やり② ・22 年度活動開始のポスティング(近隣 9 軒)：以降、年間を通して活動の節目毎にお知らせ文書をポスティングし、できるだけ直接ご挨拶するなど近隣との交流に努めた。
	5 月 18 日	・道掃除・水やり③ ・みなもぐの畑(庭の畑)について話し合い：育てる野菜(秋に収穫できるもの)を検討。さつまいもが有力候補として挙がった。
	6 月 1 日	・道掃除・水やり④ ・畑の縦横を計測し、さつまいもが何株植えられるか検討した。 ・地域全体イベント(8 月・11 月)の防災体験、8 月の自治会行事と



	の連携、11月の青空市(野菜・カレーパン販売)について検討。 6月8日 6月11日 6月14日 6月22日 6月29日 7月1日 7月6日 7月9日 7月13日	・さつまいもを植える準備として、畑の雑草取り。 ・さつまいもを植える(苗の購入・畝づくり・植え付け)  ・道掃除・水やり⑤ ・道の花飾り(花の購入・プランターへ植え付け):まちを彩るカラフルな花を選び、交通の邪魔にならない様に注意して配置した。  ・道掃除・水やり⑥ ・週末こども村(夏)に向け、こども村の活動場所を訪れ連絡事項などを打合わせ。子どもたちと遊びながらPRに努めた。 ・日野市公園課・都市計画課にてちょうまんびら公園利用申請 ・週末こども村(夏)の最終準備、地域全体イベント(8月)の準備: イベント周知のため、自治会長と打合せて自治会全戸約530世帯へチラシの回覧を依頼。併せて、主なターゲットとして想定する徒歩10分圏(約40軒)にチラシをポスティング。 ・週末こども村(夏)当日: みなもぐの畑の看板作り、ペットボトルに絵を描き水鉄砲作り。こども村を家に招いたのは初めてだったが、どの子も徐々に学生と打解け、簡単な工作でも集中して楽しんだ。その後、プールを用意しておいたちょうまんびら公園に移動。子ども達はパワー全開で水鉄砲を撃ち合い駆け回った。防災グッズとして水無しシャンプーも体験して頂いた。保護者から学生が一緒にいることで思い切り遊ぶことができた等の感想を頂いた。 ※週末こども村(夏・秋・冬・春)の記録は別途とりまとめている。  ・地域全体イベント(8月)話合い: 全体スケジュール、役割分担、
--	--	--

		当日の人数配置などを決定 →この後、学校からコロナによる学外活動原則禁止が発表された。
7月20日		・ウッドデッキの修理（表面を削る作業） ・学外活動禁止により地域全体イベント(8月)を中止。イベントで予定していた防災体験を動画作成に変更し、コンテンツを検討（災害時に役立つ7つ道具、バスタオルで水運び、紙食器づくり）
7月27日		・学内で防災動画コンテンツの撮影 ※作成した動画はYouTubeにて限定公開
8月5日		・さつまいものツル返しの日程決め
9月1日		・さつまいもツル返し1回目 ・さつまいもツル返し2回目
9月21日		・道掃除・水やり⑦
9月28日		・道掃除・水やり⑧
10月5日		・地域全体イベント(11月)話合い：当日のイベント内容の検討。
10月12日		・地域全体イベント(11月)話合い：防災展示内容の検討。 ・週末こども村(秋)話合い：当日の流れや用意するものを確認。併せて、こども村の活動場所を訪れ、連絡事項などを打合せ。 ・地域全体イベント(秋)話合い：青空市の仕入れ・予約の検討。 ・仕入先との日程調整→柚木農場、フランドールパン店に電話 ・ウッドデッキの修理（ペンキ塗装）：所有者様の思い出が詰まったデッキを再生。色も相談して決めた。
10月26日		・週末こども村(秋)準備：青空市の仕入数と値段の確認→柚木農場、フランドールパン店に電話
10月29日		・週末こども村(秋)当日：和室でハロウィン工作、洋室でツナ缶ろうそく作り。夏と同様にみんなよく集中して楽しみ、創作力を発揮して素敵な飾りが完成。ツナ缶ろうそくは案外簡単に火が灯り、こども達も興味を示し、保護者から防災体験として役立つとの声を

頂いた。夏に看板を作ったみなもぐの畑でサツマイモを収穫。大人も子どもと一緒に長い芋つるを全力で掘起こし盛上がった。



11月2日

・地域全体イベント(11月)話合い：当日の役割分担、人員配置

11月9日

・サツマイモ収穫後の花壇に植える冬～春の花を検討

11月16日

・地域全体イベント(11月)準備：家の整頓、机や人員の配置確認。
こども村からコマやけん玉を借りられることになり打合せに行く

11月25日

・地域全体イベント(11月)前日準備と最終確認。柚木農場から野菜を仕入れ、予約分の野菜の仕分け作業

11月26日

・地域全体イベント(11月)本番

駐車場で青空市。予約以外の当日販売数の予想は難しかったが、近隣の方や過去の自治会役員等が訪れ、新鮮で立派な野菜の販売に好評を頂くと共に交流機会としても喜んで頂いた。防災体験・IT

活用の「東京都防災アプリ」インストールと活用法レクチャー、防災カルタ、防災動画上映等を行った。防災アプリを積極的に活用したい等のご意見を頂けた。子ども向けにこまやけん玉も用意した。



	12月7日	・道掃除・水やり⑨
	12月14日	・週末こども村(冬)話し合い：内容の確認、買い出しの役割分担
	12月17日	・週末こども村(冬)最終確認：サバイバルクッキング(湯せんでプリン作り)の試作、買い出し、当日の人員配置確認
	12月17日	・各班で引継ぎの内容の話し合い+パワーポイント作り
		・週末こども村(冬)当日：週末こども村も3回目となり、すっかり慣れた様子の子も多い。防災体験のサバイバルクッキングは、カセットコンロを使うため安全に特に配慮した。みんな器用になめらかなプリンができた。クリスマスツリーの飾り作りは、折り紙とモールの簡単な材料でもみんな夢中で工夫を凝らして様々な飾りが出来上がり、一足早いクリスマスをみんなで楽しむことができた。
	12月22日	・道掃除・水やり⑩
	1月10日	・各班、引継ぎのパワーポイント作り+発表練習
	1月11日	・YouTube 動画完成
	1月11日	・新ゼミ生への引継ぎ発表
	1月25日	・週末こども村(春)話し合い(新ゼミ生)：豆まきのお面をフェイスシールドとマジック・折り紙・毛糸等で試作。お面を持ってこども村の活動場所を訪れ、ご挨拶、PR、連絡事項などを伝えた。

2月15日

・週末こども村(春)当日

災害伝言ダイヤル体験が可能な日を選び平日開催としたため保護者は1名だったが子どもは20名近く参加。伝言ダイヤルは子どもにはやや難しく、主に親子に体験してもらい、子ども達は防災クイズを行った。工作は相変わらず人気で、個性豊かなお面が完成。豆まきは大騒ぎの豆投げ合戦となったが、同じ勢いで掃除も全員がしっかりと行い、瞬く間に隅々まできれいになり子ども達の力に改めて感心。みんな我が家のように寛いではしゃぎ、賑やかに、今年度年4回の週末こども村を無事終えることができた。



3月13日

・道掃除・水やり⑪

・新ゼミ生全員による打合せ：新ゼミ生全員がみなもぐの家に集合。これまで道掃除は数人ずつが分担して行ってきたが、今年度最後の道掃除・水やりは、新ゼミ生全員で行った。その後、来年度の活動に向けて話し合った。花壇の水やりや家の片づけも行い、今年度のみなもぐの家の活動を締めくくった。



	活動の成果 と感想につ いて 今後の課題	「多世代が交流を楽しみ、高齢者も子どもたちも元気になれるく みなもぐの家・百草のお茶の間」の3年目として、去年の目標 であった①人を繋ぐ(交流)、②命を繋ぐ(防災)、③時間を繋ぐ(愛着) の3つのテーマを引継ぎながら、「広げる」・「深める」を新たに今 年のテーマとして活動してきた。活動計画のうち、7月30日の地 域全体イベントは学外活動禁止のためできなかったが、そのほか は開催日時を一部ずらしたのものもあるが、合計で5回のイベント (7月、10月、11月、12月、2月)を行うことができた。 <具体的な成果と感想> ・イベントの数を去年よりも増やしたため、準備する物や告知な ど時間が足りていないところが多々あったが、ゼミ内及び地域の 方々の協力のもとなんとか形にすることができた。 ・2回花を植え替えたり、新しい試みとしてさつまいもを育てるこ とを行ったりと草花に触れる機会が多く、雑草抜きや水やりなど 世話をする難しさを知ると同時に、育ってくれた感動を感じるこ とができた。 ・青空市を今回は予約なしで取り組んだが、告知するタイミング が自治会の回覧日の都合上早まってしまい、当日の集客はあまり 見込めなかった。しかし、来ていただいた方と防災アプリやカルタ などを通して交流することができた。 ・去年は主に青空市でしか防災展示・活動を行うことができな かったが、今年はこども村の子供たちを中心に多くの方に防災に関 する知識を体験という形で伝えることができ、私たち学生側も改 めて学ぶ機会を得ることができた。 ・先輩方が繋いでくれた近隣の方やこども村の方、日野市役所の方 などのコアメンバーの方々に数多く力を借りる場面があり、地域 の方の温かさに触れることができ、とても嬉しくありがたかった。 →今年のテーマであった地域の方との関係を「広げる・深める」と いった目標を達成できた。 →今後の活動場所の候補を拡げることにもつながった(地域の方か ら児童館での活動に参加するよう声をかけて頂いた／市役所から 他の空施設等での活動についても打診された／新旧自治会長から 自治会とみなもぐの家との連携や、自治会活動への連携等につい て声をかけて頂いた) ○イベントの回数を増やすことのみに力を使い切ってしまうので はなく、個々のイベントの質を上げ、さらに地域の方に周知しても
--	--	--

※受付日		※受付No.	
------	--	--------	--

※本学記入欄

		らう方法を一層工夫する必要がある。(どのような媒体・手段で伝えるか) ○今年はこども村と定期的に活動機会を設けた。今後はさらに、地域の高齢者の方との交流にもより積極的に取組めるような活動の企画が必要だと考える。 ○私たちが地域の方達とともに行動してきたことにより、「地域と学生・大学との繋がり」が深まったことは貴重な成果と考える。そしてこれは同時に「地域の方達同士の繋がり」を深めることともなったとのご意見を頂くことができた。コミュニティの希薄化、地域防災力の維持が課題になるなかで、今後も今まで以上に地域の方との関係を深め、大学ー地域の多様な繋がりを構築していったほしい。
--	--	--